

竹内委員

県立図書館には、「主体として何をするのか」が求められている
 図書館の強みは「場」と「コンテンツ」と「専門家集団」である
情報資源のデジタル化というのは非常に重要なポイントである（図書館サービスの軸をデジタルで定義しなおす）
情報を使うことによって新たな知が生み出されていくというイメージを具体化する（コモンズ）
 発信されて共有されていく、誰かのためにさらに使われるという大きな流れをきちんとイメージして作っていく
 図書館が存在するのは県の人々のためであって、その結果として**経済・産業・文化・教育の発展に寄与**できる
 従来図書館で考えていたものとは全く違うタイプのコンテンツを図書館が扱うということを考える必要がある（例えば教育という場で作り出される多様なリソース）
 誰も公的には扱ってこなかった情報（デジタルで作られることがベースになっていく）を発見し、利用し、次のステップに繋いであげられる環境を提供する
 知のスパイラル（何かを使って、それを少しずつ変化させていく人がいる。変化させたものを誰かがまた見つけて手を加えていく）＝知の創造と循環
人的ネットワークを横にどれだけ広げられるかが重要
 図書館は意識的に「越境」すべきである
 デジタルな世界では**クロスオーバー**が起きる
 この場に来るという動機付け、なだらかな連携、**単なる合築か違う形での複合が行われるか**について議論が重要
場所としてのシンボル性、デジタルで見えていながらある場所に出かけていく理由は何かを考える
プラットフォームの集中化＝それ自体が公共の場
コミュニティの構成員に対して最も大きな貢献ができる
 いくつかの関連を持つ施設が集まることの意味合いをきちんと議論する必要がある
 経済、産業、文化と図書館との関わり方は考えたいテーマ

河野委員

「県民がどこに住んでいても必要な資料がちゃんと届く」という県立図書館の理念の実現方法が、建物ではなく機能をどうやって届ければいいのか、という方向に変化した
 基本構想でうたうこれからの県立図書館の機能のうち、1～4が屋台骨としてあってはじめて、5が成り立つ
 あちこちにある情報を探してその中で一番適切な情報を提供する、**資料情報を一元的に検索して活用できる場としての図書館**
必要な人が必要な情報を効率よく引き出せる仕組み、ノウハウは図書館員が持っている

田野委員

全ての県民が利用しやすく快適な社会教育施設とは、**図書館と他の機能との境目が適度でない施設**というイメージである
 図書館サービスでは「**人間のネットワーク**」が重要になる
 図書館が公民館がやることをやらざるを得なくなってくる
 その自治体の行政資料は図書館に置くことで市民は利用しやすくなる

廣田委員

デジタルな情報と原物の情報が、県レベルの知の集積あり方として必要ではないか
人のネットワークによって集積されたものと人が関わることで教育普及と研究支援が成り立ち、産業と経済につながるような循環システムを作れるのではないか
複合化は集めることによって多機能にする、といいながら、実際はバラバラの施設が集まっているだけことが多い
それぞれの機能の重なる部分が一番重要なのに、行政ではタッチしない。**複合のメリットは議論すべき**
使う側にとってどういう風であればいいかという発想が必要

福島委員

ナレッジベースの設置（大学のラーニング commons の応用）、ウィキペディアタウン（図書館資料を使って、図書館員が関わることで「正確な」地域情報を発信する、資料を提供し加工してもらうための現場を作る）、クリエイティブ commons（著作権が切れたコンテンツを正確に把握してライセンスを付けて出すことによってウィキペディアタウンなどの営みを支援する）などの実践が、「知の創造と循環」のイメージに近いのではないか
県立図書館の役割の一つは市町村の「モデルケース」になること
（図書館、文書館、博物館が）原物をお互いにどう持ち合うか、デジタル情報をどう持ち合うか、図書を引いてみる必要がある
組織を一緒にしている例で奈良が新しい、郷土資料との境をなだらかにしている、一般に流通する本、郷土資料、地域資料、アーカイブが地続き
基盤をきちり作ること、情報を遍在させることが必要、いろんなところに情報がないと、人は触れられない

安井委員

ユーザー側から見たときに、こういうものについてはここに行けばわかるだろうという**期待がその場に集中することが重要**。とりあえずそこに行っておけばいいと思えて、しかもそれに応える循環が生まれると、正のフィードバックになる。関心や期待のポイントを集中させることが、まさに「拠点」である
図書館、博物館、公文書館という区分けは、普段使わない人にとっては必ずしも自明ではない
国立国会図書館では、資料をデジタル化して公開しているが、来館者も増えている。今までそもそも触れなかった方が利用してくれることで期待をもって、そこに行けば何かもっとすごいものがあるんじゃないかと期待が集まってきているという解釈もできる